

イカナゴ情報 No.1 (2023年5月)



令和5年5月29日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 佐藤) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

海洋観測: 漁場 (水深40~80 m) の底層水温は北部・南部ともに高め

宗谷海峡東方海域において5月23~24日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました(図1)。観測ラインの水温鉛直断面図をみると、ラインAではオッタートロールの主漁場となるIS02より沖側(水深40 m以深)の海域は水温6°C以下の水塊が占めていました。ラインB、Cではかけまわしの主漁場となるIS11やIS14より沖側(水深50 m以深)では水温10°C以下の水塊が漁場全体を占めていました(図2)。2023年度の底層水温の分布をみると、過去3年間に比べて沿岸の広い範囲に暖水が分布していません(図3)。2023年度のイカナゴ漁場(水深40~80 m)の底層水温は、昨年と比べて、オッタートロールの主漁場に近い北側、かけまわしの主漁場に近い南側ともに2°C以上高めの水温でした(図3)。

魚探観測: 水深50~60 m でイカナゴ類とみられる反応を複数確認

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました(図4)。全てのラインの水深50~60m付近でイカナゴ類とみられる魚群を確認しました。それらの反応の多くは海底から5~10m程度浮いている、高さ20~30m程度の棒状の反応でした。また水深60~80m付近でもイカナゴとみられる魚群を複数確認しました。

漁獲物組成: イカナゴは体長15~16cm 台が中心、大型の割合低下

ラインAのIS02西側(水深60m付近)で、オッタートロールによりイカナゴ類の採集を行いました。魚群が浮いていたためイカナゴの入網は3回の操業で合計100匹程度でした。漁獲標本の体長組成には15~16cmと22cm前後にピークが見られました(図5)。昨年まで漁獲の主体であった20cm以上の大型の割合は低下し、15~16cmの小型の個体が中心となりました。

その他、漁獲物の主体はカレイ類とカスベ、カジカ類などで、昨年と多く漁獲されたマダラはあまり漁獲されませんでした。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる (Orr *et al.*, 2015)

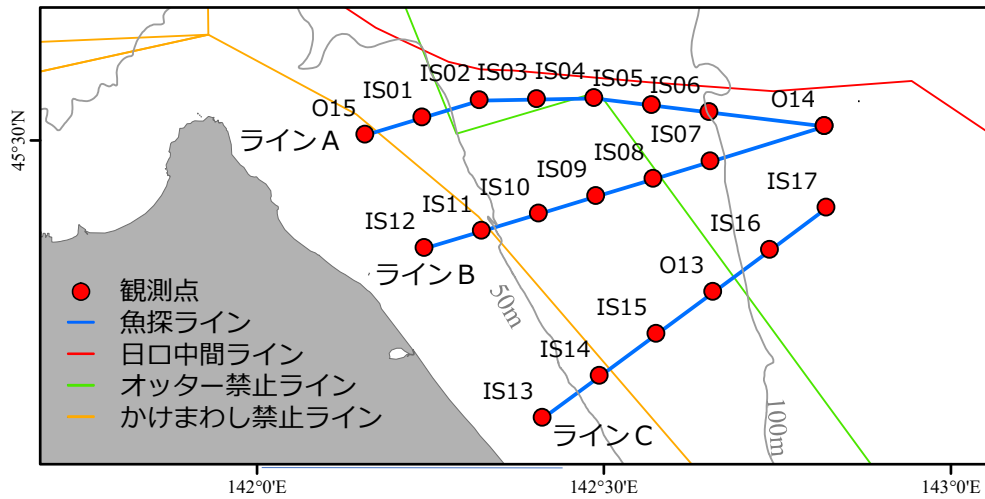


図1. 海洋観測・魚探観測ラインの位置

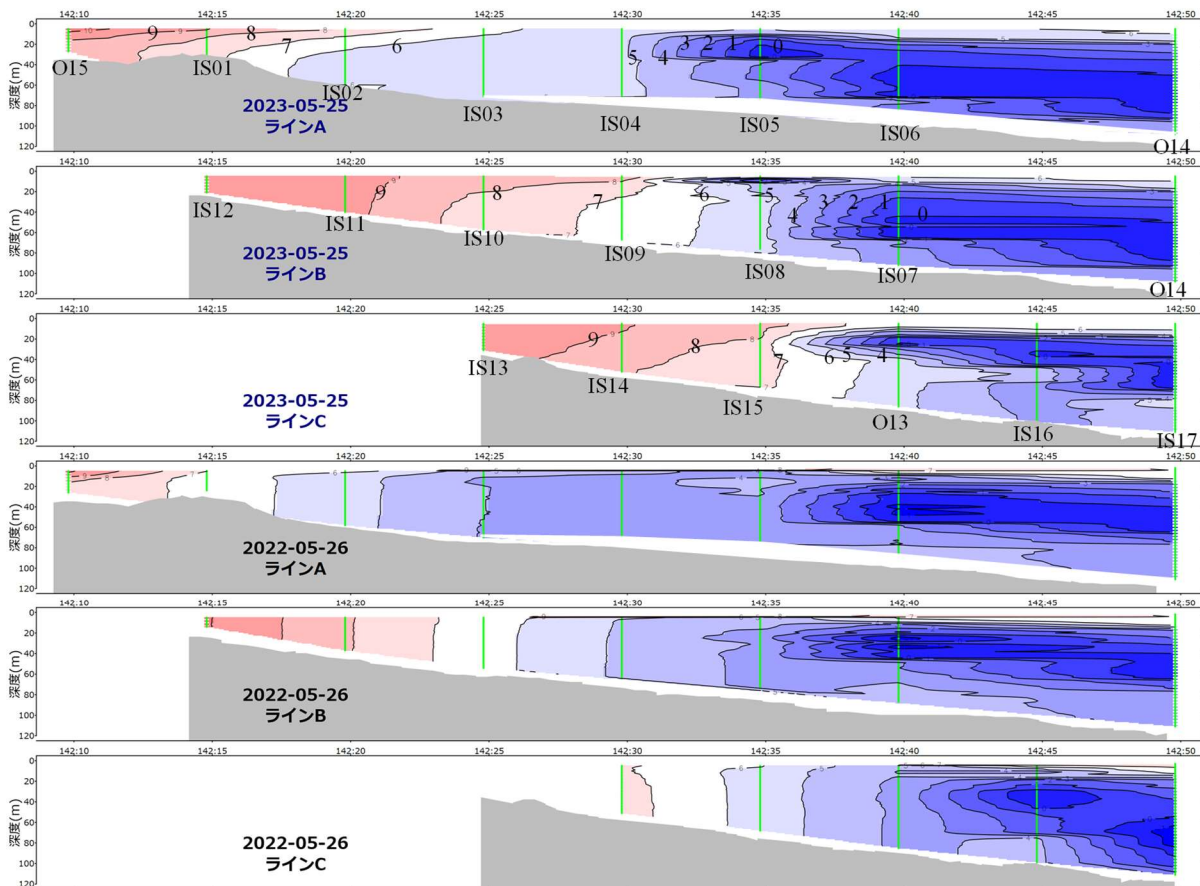


図2. 2022・23年の各調査ラインの水溫鉛直分布. IS13(ラインC)は2022年欠測.

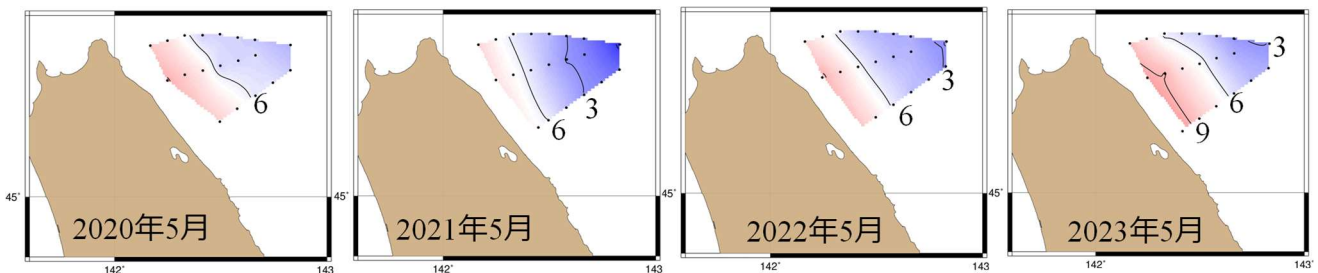


図3. 2020~23年の調査海域における底層水溫の水平分布.

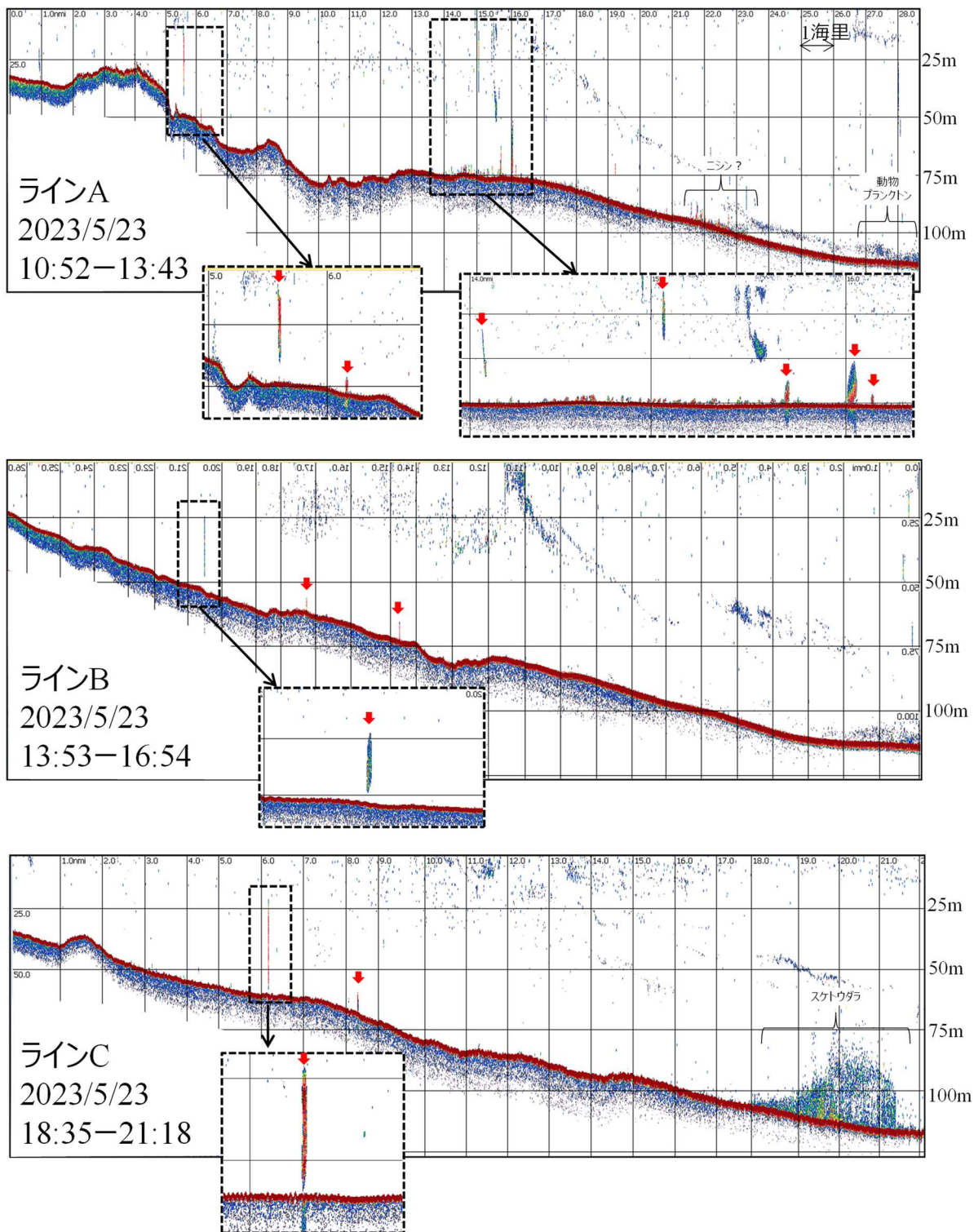


図4. 観測ラインA・B・Cにおける魚探反応. 各下図は各上図中黒点線枠内の拡大図. イカナゴ類とみられる魚群反応を赤矢印で示した。

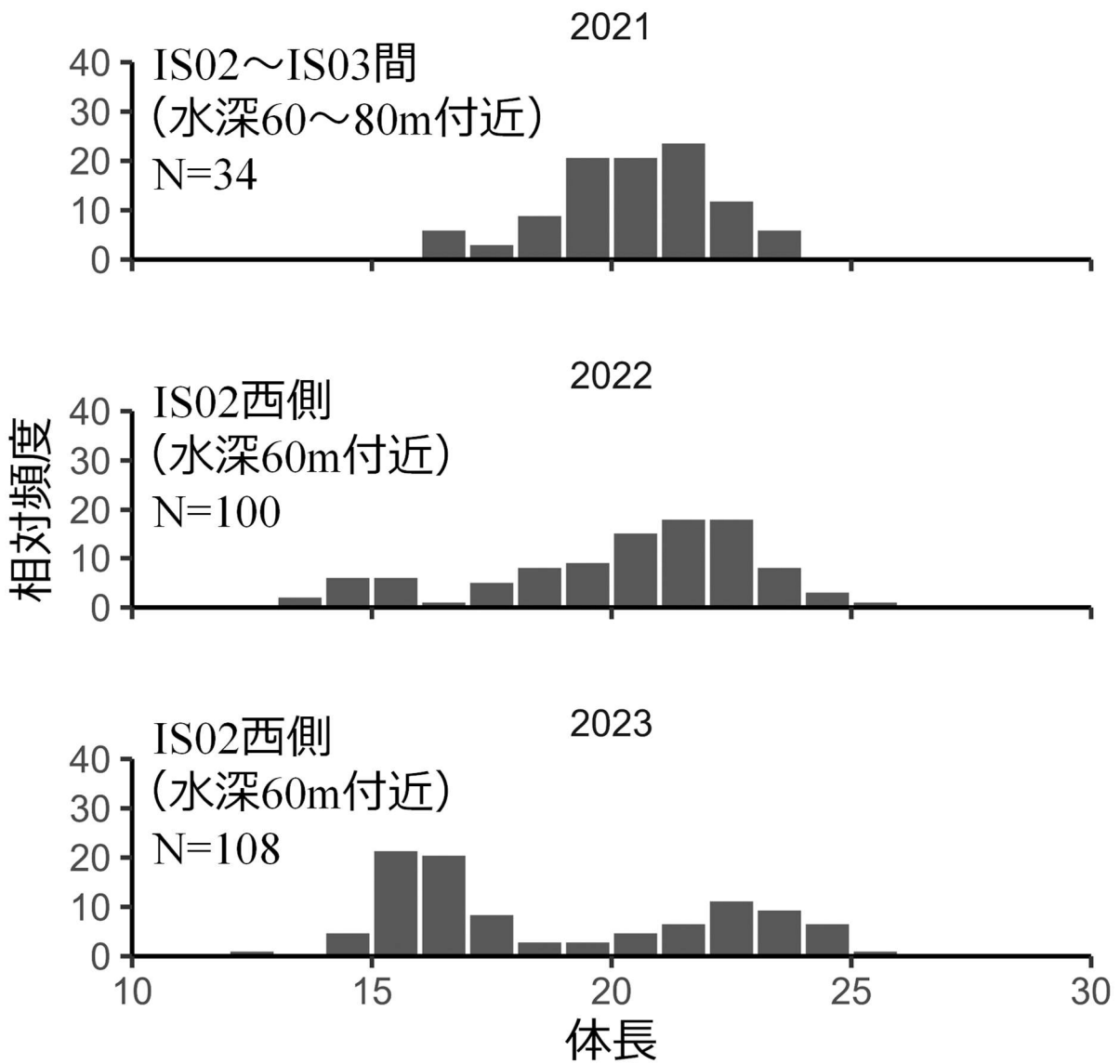


図5. オッタートロールで採集したイカナゴ類の体長組成.